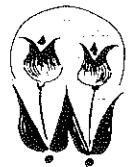


シルバー ところざわ



3月号

◆発行 社団 法人 所沢市シルバー人材センター広報委員会 1996 No.54

=所沢の文化財=

小野家住宅 (所沢市林2丁目426)



上の写真は、約300年程前に建てられ、当時の武蔵野開拓農家の面影をよく残しているとして、昭和50年6月に国の重要文化財に指定された小野家住宅です。柱は、内部柱一本だけが杉で、他の柱は全部栗の木を手斧（ちょうな）で仕上げた入母屋造りの素朴な建物です。

所沢市の西端三ヶ島地区、林2丁目のまだ畠地の続く一角にあります。折をみて会員の方々誘い合わせ、散策がてらに訪ねられ往時を偲ばれてはいかがでしょう。

力作揃い・・・華麗に会員作品展!!



書と絵画コーナー

賞に来場、一時は会場が満員になる程の盛況でした。今年で3回目となりましたが、鑑賞中の皆さんから「昨年、一昨年に比べ今年は又、一段と力作揃いで素晴らしい」と激賞の言葉が交わされているのを多々耳にしました。

翌2日目、陽気は又寒い冬日に戻りましたが、初日同様多くの方々のご来場をいただき、好評裡に終了することができました。

貴重な作品を出品ご協力下さいました多数会員の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、明年も又、より多くの会員の方々のご理解ご協力をいただき、一層盛大に開催されますことを願う次第です。

恒例となった会員作品展が、本年も新年早々の1月16日(火)～17日(水)の両日、旧市役所庁舎2階の展示室で、会員36名の方々から寄せられた力作86点を展示、華麗に開催されました。

開催初日の16日(火)は、前々日までの凍つくような酷寒の日々が前日から一変、当日も20度近い春日和の陽気。そんな陽気の中、会員並びに一般市民百数拾名の方々が次々鑑



手工芸、絵画コーナー

埼シ高協定期総会開催される

去る2月23日（金）、第15回埼玉県シルバー人材センター・高齢者事業団等協議会（略称、埼シ高協）定期総会が、埼玉県庁、第3庁舎講堂において開催されました。県下79の市町村の各シルバー人材センター・事業団から200数拾名の理事、役員の方々が参集、平成8年度の事業計画並びに予算案を主題とする6議案について、議案書に基づいて審議、全議案が原案通り承認可決されました。

当センターからは、高橋理事長並びに山川次長が出席、私は広報関係講演聴講のため同席いたしました。

総会に先立ち、外園会長より下記のとおり、協議会の現況並びに活動概要について挨拶と報告がなされました。

記

1. 協議会参加団体数 79団体（平成8年度、秩父郡吉田町の新規加入を含む）
2. 総加入会員数 24,447名（平成8年1月末）
3. 総契約高（平成8年1月末 70億） 期末 90億
4. 署名活動（平成7年10月 全シ協主唱によりシルバー人材センター事業の発展拡充のための制度改正、財政支援、税制特別措置に関する要請）の成果と動勢。

署名数 埼シ協 106,000名

全 国 268万名

以上の成果に基づき目下、高齢者等雇用安定法等制度の改正並びに、財政支援の拡充等の実現に鋭意努めているところですが、シルバー人材センター・高齢者事業団は、各地域の発展と活性化に欠くことのできない重要な事業団体となっている。

5. 奥武藏あじさい館の運営受託について

高齢者・障害者を対象とする県営「奥武藏あじさい館」（別添案内書参照）が、飯能市吾野地内に建設され、埼シ高協がその運営を受託、本年4月18日（木）営業を開始いたします。立派な施設が割安に利用できます。所属会員皆さんに広くご伝声下さい。

なお、本総会において当センター大野専務理事兼事務局長が永年勤続（10年）職員として表彰されました。

（設楽・記）

吾妻地区 渕江悌次

俳句

石とばす梅雨の晴間や芝刈機
生姜の芽折れて素知らぬ罪な足

梶花を残して老の鎌すすむ

寺の井を汲めば秋の蚊寄り来る
ふじばかま無人売場に一把のみ

産土神の銀杏乙女と庭の鳩

梶の音峰の茶屋に草紅葉

落葉散る幹に縋りて走り書き

椋の実を受ける帽子の六地蔵

麦の芽やゲートボールの背番号

梯子



=会員安全就業推進委員会から=

口惜しいけれど……機能の低下!!

最近、交通災害、特に死亡事故について高齢者が占める比率が急激に高まっていると、関係方面から指摘報道されている。長寿、少子化という相反する現象から、平均年齢が急速に高まる我が国人口構成変化の当然の帰結で、安易に多発の要因が高齢者にあるように報じられることについては抵抗がある。しかし、口惜しいけれど意識とは別に人間、年齢を重ねる程に身体的諸機能の低下は、個人差が多少はあるにしても、全般的には否めないのが事実。そこで、その諸機能低下に伴って生じる身体的特性と、その特性が日常の行動上に現われる状態を端的にまとめたのが別表。

就業に当たって、またその通勤途上で、そしてその他日常生活においても参考とされ、災害から身を守っていただきたいと思います。

(別表) 高齢者の身体的低下特性と行動特性

身体的特性	行 動 特 性 (状態)
視力の低下 (見逃し・見遅れ・見誤り)	視野(注意の範囲)が狭くなり、次の状態が生じる。 1. 見逃しや見遅れが多くなり、思いがけない所で事故にあう。 2. 夕方などの薄暗さに慣れるのが遅い。(暗順応遅滞)
聴力の低下 (高音が先に聴き取りづらくなる)	加齢と共に、高音が先に聴き取りづらくなり、次第に、中・低音に及ぶ。 従って、車の接近を示すエンジン音やクラクションなど高音が聴き取りづらくなり、危険を感知するのが遅くなつて事故にあう要因となる。
体力の低下 (つまづいたり、転び易くなる)	1. 敏捷性・バランス感覚・柔軟性が極端に衰え、転び易くなる。 2. 脚力が低下し、歩行速度・自転車のペダル操作が不自然となる。(リズム感覚が衰え、つまづき易い)
行 動 (無意識にて前かがみ)	1. 下向きの歩行姿勢……視点が近くなつて危険状態の発覚が遅くなる。 2. 遅い歩行速度……歩幅が狭くなり、足がもつれて減速し、車の接近速度に対応できない。 3. 危険なふらつき……自分では真っ直ぐ歩いているつもりでも、いつの間にか道路の中央寄りに進んでいる。

シルバーパワーの和……輪



新所沢地区 五社 よし子

高齢化という社会現象の中で、介護保険の導入など、他人事ではない話題の多いこの頃ですが、私達にとっては介護保険をどうしようかという年齢ではなく、もはや目前の避けられない現実なのです。

今、私達の所沢市シルバー人材センターで実施しようと準備している「福祉・家事援助サービス」は、より健康な老人の力で、不自由な生活を送っている老人のお世話やお手伝いをしようという大変よい事業ですが、お世話されてもおかしくない年齢の者がお世話しようというのですから、生易しいものではないと思います。

掃除や買物、お話相手などはよいとしても、介護となるとやはり男性や年齢の若い会員さんに積極的に参加協力してもらわないと……、成功は難しいのではないでしょか。

一つの事業を協力して行なうには、何よりシルバーの会員であることに誇りと満足感を持って居られることが大切でしょう。新しい会員さんにシルバーセンターは楽しい所だなと感じてもらえるよう、

和やかな雰囲気作りが必要だと思います。長い人生の約三分の二を過ごしてきた私達が会員になるのですから、もっと穏やかに行けそうなものですが、時にパワーが余って不平や不満、愚痴が出ます。人それぞれ体力も能力も人柄も違うのですから、一つの輪を作ろうとする時、お互いにゆずり合い、人の気持ちになり、それなりの努力は必要でしょう。

昨年の総会の時、「五社さん、こうなのよ、ああのよ」と色々話をしてくれた人が幾人か居たのですが、何の力もない私には何もしてあげられません。でも、言いたい事を言って、聞く人が居る事で、多少は気持ちの安らぎがあるのではないかと、聞くだけでも役に立ったかなと私流に考えました。

会員同志が言いたいことを言える場があるといいのですが、大勢の人の前で意見や希望を発表するというのは、なかなか出来そうで出来ない、勇気のいるものです。でも、事務局に聞いてもらいたい事はある筈だと思います。そこで目安箱を作っていただき、希望、アイデア、愚痴、悩み、不満、何でも書いて入れることが出来たら、すぐに希望通りには行かないとしても、少しずつ良い方向へ、そして会員相互の意志の疎通や事務局とのパイプになるのではないかと、又、検討の結果、自分の意見通りでなく行事や仕事が決まったら、意見は意見として決定事項に協力してこそ所沢市シルバー人材センターも伸びるでしょう。その歩みは遅くとも後戻りしない事が何よりの前進です。

今年こそみんなで頑張って福祉・家事援助サービスの成功と会員の就業率をアップさせて、所沢市シルバーの進歩を他市のシルバー人材センターに見せたいものです。

みんなで頑張りましょう。そして楽しい所沢市シルバー人材センターを作りましょう。

この仕事に就いてよかったです//

(苦情の場が、コミュニケーションの場に)

三ヶ島地区 野田秀雄

私が今の仕事に就いたのは、今より遡って4年前になります。センターの係員新井さんと一緒に依頼主の丸産住宅会社を訪れ、社長さんとお会いしました。そこで決まった仕事の内容は、朝の8時から10時半頃まで、廃材を焼却する仕事で毎週火曜日と金曜日の週2日間とすることでした。

私が行く前は、地面にただ大きな穴を掘り、その中で廃材を燃やしていたため、火の粉が飛んだり、煙が低く流れ、近所の方々に大分迷惑をおかけしていたと言うので、先ず焼却窯を設置してもらった上で就業させてもらうこととなりました。

始めの頃は決められた曜日に出て、決められた通りの仕事をしていましたが、そのうちにトラックで2～3台と廃材が届くようになり、廃材が山のように積まれてしまい、週に2日間ではとても処理できなくなりました。そこで週3日から4日と就業日数を増やし、更に時には毎日就業という月も続きました。焼却の量は夏場が多く、冬場は取り壊し現場でも焼却するので少なく、1月～2月は特に少なくなります。そこで焼却量の多くなる夏場は近所の人達から煙いとか、臭いとか、煤が飛んできて布団や洗濯物が干せないなど苦情の電話があり、時には市役所の職員が調べに来られたりしました。そこで私は独断で夏場だけ朝4時半に出勤、5時には前日の灰を窯から搔き出し、5時半には火を点けることとし、実行しました。そうやって近所の人の迷惑を少しでも減らすことが、この仕事を引き受けた私の義務だと考えたからです。すると近所の人からの苦情は全く無くなりました。私が考えた通りでした。その筈です。近所の皆さんのが起きて布団や洗濯物を干す頃には窯の中の物は殆んど焼け終わり、煙りも余り出ないようになっているからです。そして冬場も朝6時から仕事に掛かることになりました。火を点けても窯が暖かくなるまでは煙がモクモクと立ち登り、窯が暖まり火勢が付くと約5mの煙突の上からゴウゴウと音を立て真赤な炎が吹き出す様は、暑い夏場にはそれ程感じませんが、冬場のそれは圧巻です。従って夏場は誰も寄りつきませんが、冬場は朝7時位になると窯の燃える音

を聞いて近所の人達が身体を暖めにやって来ます。8時頃になると小・中学生が手を暖めに来ます。中には芋や餅などを持ってきて焼きたてを頬張る人もいます。早起きとなるので大変な面はありましたが、作業時間を変えたことで近所の人に迷惑をかけなくなり苦情がなくなったばかりでなく、むしろ親しくなり、コミュニケーションを深めることができ、本当によかったと思います。

最近では、近所の燃えるゴミの面倒を見て上げたり、夏場には学校の夏休みに「河原で行なうバーベキューに使うので木の切れ端を下さい」と小学生の親達が2~3人で薪をもらいに来たり、又畑に農耕器具を収納する小屋を作りたいので古い畳や網戸、雨戸等をもらいに来る人もいます。「どうせ燃やすものだから好きなだけお持ちなさい」と言いますと、喜んで持って行かれます。

今、自己中心の世の中ですが、仕事を通して、又生活の中でちょっと困っている人や迷惑を受けている人の立場に立って、一人一人が改善に努めれば、ずっと住みよい社会になると思います。

センターに入って、この仕事に就いたことに大いに満足しています。私は現在の仕事に就業する前、三ヶ島の林に在るサンエル螺旋会社で、会員の巻島さんと一緒に働いていましたが、左眼が見えなくなり、医師の診断を受けたところ眼底出血の診断で、昔勤めていた板橋区大山に在る老人医療センターに入院治療、完全治療の上、再度会に戻り、現在の仕事に就きました。

これからもシルバー人材センターの会員として、世間の人達に親しまれ、また恥ずかしくない立派な仕事ができるよう、誠心誠意を持って仕事に励んで行きたいと思います。

これからのおゆみ。。。シルバーとともに

小手指地区 真 中 三 郎



通勤地獄から解放され、生まれて初めての小さな畠で野菜を作り、食卓にのせた時の喜びは一入であった。暫くは晴耕雨読の生活を満喫していたが、長年培われた働き蜂の習性が頭を擡げ出した。精神的な束縛を受けるサラリーマン生活はもう真っ平だが、ある程度の規則的な日常生活もしたいし、地元で何か自分にも出来そうな仕事はないものか、と模索し出した矢先、当センターを知って入会した。最初に頂戴した仕事は、某乳業メーカーのチラシ配りであった。

都心からこの地へ移って七年にもなったが、自宅周辺以外は殆んどわからなかった。地図を頼りに、北中・岩岡・北岩岡・向陽町・所沢新町等々、自転車で配達したが、この地域の人達が言う「すぐそこ」が程遠いのにも驚かされた。しかし、所沢の概略が描けるようになったのは収穫であった。自分も所沢市民であるとの意識を強くした。

二番目の仕事は、地元にある配送センターでの軽作業であった。事務系の仕事しか知らなかった私にとっては、全身運動にも等しい商品の搬出作業であった。出勤日は一日一万歩以上も歩くので、六十八キロあった体重が半年も経たぬうちに六十一キロまでスリムになり、健康に自信がつき、毎日の晩酌が実にうまかった。しかし、終盤には体力の限界を感じ、結果、去ることになった。シルバーの同僚との触れ合いも楽しかったが、共に働く若いお母様方の気配り、優しさが今でも忘れ難い。

現在は一日おきにスキー場のロッカー係をしているが、これも今迄に全く経験のないサービス業で、最初は戸惑いもあったが、職場全体に若者が多く、闊達で新鮮である。

お客様の年齢層も幅広く、私と同年齢の方々も多く見受けるが、若い恋人同志、又は家族全員で、スキー、スノーボードに興じられている様は微笑ましい。自分の若い頃を振り返ると、仕事にかまけ、付き合いが第一で、家族団欒は二の次。それに比べ、今の若い人達の余暇の過ごし方はお見事の一語。つくづく世代の差、時代の変化を思い知らされる。センターを通じて、人生経験豊かな先輩諸兄との触れ合いも楽しく、又気のかけない友人もできた。たまには言いたいことを言い、酒を酌み交わし、カラオケに興じたりして、お互いの親交を深めるのも、又良いと思う。これからは先ず、健康と安全に留意し、肩肘を張らず、色々な仕事を楽しんで行こうと思う。

私の青春…滅私奉公（終戦までの想い出）

新所沢東地区 仁科 正之

私は1924年、大正13年1月生まれで、今年は私の干支です。私の生まれた当時の世の中は、正しく日本の黎明期でもありました。三歳ぐらい、四歳ぐらいの記憶が少々残っております。現代っ子の様にナウイ服装ではなく、毎日毎日着物を着せられ、着物の袖は鼻水で黒光り、世間の事は何も知らず、勉強に追い回されることもなく毎日遊びまくっておりました。昭和三年、四年の頃、世の中は大学は出たけれど職はなしという時代だったと聞いております。第一次世界大戦後の日本の好景気も長くは続かず、昭和2年には金融恐慌が吹き荒れた。他方、世界恐慌が深まる中、日本は何等適切な対策を持たず、ひたすら軍備の拡張に努め、外国侵略、植民地獲得などファシズムへの道を歩んでいました。そして、軍部の圧力が増し、満州事変、支那事変勃発に至りました。更に無謀な国家総動員令が定められ、国民皆兵が強制され、第二次世界大戦へのめり込んだのでした。私は当時旧制の中学校に入学したばかりでしたが、中学校以上では強制科目として厳しい軍事教練が行なわれ、大東亜戦争（第二次世界大戦）の泥沼に入ると、労働者を補う為、学徒戦時動員が発令され、本質である勉学は得られず、専ら國のための奉仕と、軍事教練に明け暮れました。男女間の事などは今とは比較にならない程厳重で、「男女七歳にして席を同じうせず」の言葉通り、お互いに知っている人でも話をしている所を見つかると往復ピンタの二つや三つは覚悟しなければならないという時代。何をおいても先ず、国のために尽くす事が第一がありました。戦局が益々激化するに従って、学業なかばに繞々と自ら志願して軍籍に身を投じ、國家あるのみと滅私奉公の信念に燃えた青春でした。前途は希望も夢もない暗い失われた青春でした。敗戦の様相が日々に濃くなり、各地で玉碎。そして、米・英・ソ連等連合国「ポツダム宣言」が発表されたにも拘らず、日本は本土決戦を準備。しかし、広島・長崎に連続して原爆が投下され、昭和二十年八月十五日「ポツダム宣言」を受諾して、無条件降伏をしたのでした。憎むべき原子爆弾によって、人類破滅というおそろしいまでの暗黒の世界へと。生き地獄広島・長崎の悲惨は、それが無為の戦争の結果とはいえ、余りにもむごい事実でした。私は昭和十九年十二月、大学なかばにて兵役に服し外地に派遣され、任地に到着、まもなく終戦。そして捕虜となり、捕虜生活一年と八ヶ月、言葉には言い尽くせない真っ暗な毎日を過ごし、ようやく復員して参りました。この世に生まれて七十年、大正・昭和の時代と共に生きて来ましたが、暗黒のあの苦しい時代、頭の中に又、心の中に刻み込まれております。

人間が人間として真心をもって接することこそ大切なものであると同時に、世界中の一人一人が「我々は戦争をしない」「我々は平和を求める」という力強い意志表示をし、戦争による数多くの犠牲者の死を無にせぬ道を歩むよう努力することが、私達に負わされた義務ではないでしょうか。愈々二十一世紀も目の前にきている。どんな時代の到来なのだろうか。残り少ない人生、前途多難と思いつつ、悔いのない人生を、時代の流れを的確に捉え、生きていこうと考えております。

想い出しますと数限りなくありますが、苦しかった思い出の一端として綴ってみました。

皆さんの努力結果!!（ご苦労様でした。）

月	会員数	受託件数	就業人員		契約金額			単位：円
			実人員	延人員	配分金	事務費	その他	
10	789	239	368	5,557	23,000,966	1,649,658	1,379,706	26,030,330
11	797	254	361	5,475	23,081,745	1,535,827	904,762	25,522,334
12	801	227	375	5,809	26,037,499	1,531,528	787,274	28,356,301
計		720		16,841	72,120,210	4,717,013	3,071,742	79,908,965



【1】安全就業標語の募集

会員各位の就業に当たっての安全確保に関する関心の一層の高揚と確保活動の一環として、下記要綱により標語の募集を行ないます。趣旨ご理解の上、奮ってご応募下さい。

1. 募集する標語のテーマ

- イ. 就業の安全確保に関するもの
- ロ. 途上（就業）事故の防止に関するもの
- ハ. 健康の管理と確保に関するもの

2. 応募方法

- イ. 応募提出句数……5句以内（1人）

- ロ. 作品の提出……住所・氏名・会員番号明記

（1）ハガキに作品列記、センター宛郵送 （2）便せん等に列記、センター持参

ハ. 提出期限……平成8年4月30日、センター必着

3. 作品の選考並びに入選等

- イ. 作品の選考 選考委員の選考による

- ロ. 入選者

（1）1席……1名 賞状並びに副賞1万円 （2）2席……2名 賞状並びに副賞5千円

（3）佳作……10名 記念品

ハ. その他、不明の点はセンター事務局にお問い合わせ下さい。



【2】平成8年度 定期総会開催日程決まる！

平成8年度 定期総会を下記により開催いたします。会員皆さん、万障縦合わせご出席下さいますようお願いいたします。

1. 開催日時 平成8年5月27日（月）午後1時より

2. 場 所 旧市役所庁舎4階、市民ホール

3. その他の 総会終了後、懇親パーティを行ないます。

【3】↑ 洋傘の修理受託再開！！

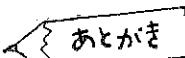
暫らく中断しておりました洋傘の修理を本年4月1日（月）から下記により再開いたします。旧に倍しご利用下さい。

1. 修理員駐在日時……毎週月曜日AM10時～PM4時

2. 修理の委託受付……土、日祭日を除く毎日AM9時～PM4時

3. 受託修理品のお渡し…受託日の翌週の曜日から

4. 修 理 代……時価（修理内容による）



昨年が余りにもひどい年明け、そして一年だったので、おどろおどろ迎えた今年。アッと言う間にもう3月。連日「じゅうせん」報道で政治不信は募る一方。そんな中の2月10日（金）、北海道積丹半島古平町で、5万トン余という巨大岩盤が崩落、トンネルを押し潰し走行中の定期バス（乗客18名、運転士）と乗用車一台が下敷きとなり、その救出に一週間もの時間を要し、被害者の家族は言うに及ばず、全国民の悲願も空しく20名全員が遺体で収容されるという惨事が追い討ち。また今年も暗いニュースの連続。どんな事態に遭遇しようと、爪先だけはしっかりと前へ向けて歩め……と誰かが言った。

4月から新年度が始まる。私達の属する全シ協では、働く意欲ある高齢者のすべてが事業に参加できるよう、事業の拡充、発展を図り、21世紀初頭には100万人会員（現在33万人）を目指し、その実現を期すべく法改正、援助助成等についてすでに関係方面に対し、具体的要請を進めていると聞く。

当センターでも、福祉・家事援助サービス事業の本格的事業化など、取り組む課題が多い。前を向いて歩きましょう。シルバーだよりも本号が本年度最終号。多数のご寄稿ありがとうございました。次号平成8年度第1号は7月15日発行の予定です。随筆・感想文・紀行・詩・句、なんでも結構です。多数のご寄稿をお待ちいたします。6月20日頃までに送稿ください。（A. S記）